

「インド」をもっと身近に

Bringing India Closer to Japan



2025年5月19日

(株)ANA総合研究所 主席研究員 片桐常弥

岸田総理より、日印国交樹立70周年の昨年に、多くの文化交流事業が行われたこと、最近日本による青年招へいプログラムも再開したことに言及し、**技能実習制度や特定技能制度の活用、学術交流や自治体間交流を更に促進していく旨を表明しました。**

両首脳は、インドにおける日本語教育を促進することで一致し、両国の人的交流、ビジネス交流の発展につながることへの期待を表明しました。岸田総理より、日本語教育に関する覚書が改訂されたことを歓迎しました。

岸田総理より、日本の有償資金協力によるインド工科大学（IIT）ハイデラバード校の大学施設建設が進捗していることに言及し、更なる教員や学生間の交流、インド人IT人材の日本企業での活躍などにつながることへの期待を表明しました。

また、両首脳は、インド人学生の日本への留学の増加につき検討していくこと、及び、2023年度を「日印観光交流年」として、観光交流を進めていくことで一致しました。モディ首相からは、留学生増加に向けて両首脳自らが積極的に取り組む旨の発言がありました。

※外務省ホームページより

■日インド人材交流、5万人創出 額賀議長、モディ首相面会

2024年8月2日 共同通信

【ニューデリー共同】インドを訪問中の衆院の額賀福志郎議長は1日、モディ首相と面会し、日印間の人材交流の推進を申し合わせた。留学や就職を通じ、今後5年間で5万人規模の交流を目指す。



■額賀衆院議長、「インド北東部との人材交流を」 2025年5月6日 日本経済新聞

インド北東部は日本などの人々に近いモンゴロイド系住民が多く住み、食習慣も似ているといわれる。同州を初めて視察した額賀氏は「アッサム州などは人口も多い。日本人も親近感を持つはずだ」と語った。

今後は介護従事者や自動車のドライバーなど、より広い範囲の人材をインドから日本に受け入れることを目指す。

額賀氏はジャイシャンカル外相と会談し、両国の人材交流を活発化させることで合意。モディ氏には早期に訪日してもらうことを要請した。

経済産業省は2024年度の補正予算で、日系企業の人材の採用や育成をインドで支援する予算を15億円程度計上した。



■菅前首相 インド首相と会談

2023年7月6日 NHK NEWS WEB

この中で菅氏は、両国の経済関係の強化に向けて、日本企業の投資環境の整備を進めることが重要だとして協力を求めました。

また、日本の新幹線技術が導入される高速鉄道の建設現場を5日に視察したことを踏まえ、早期の開業を目指して両国で協力していくことを確認しました。さらに両氏は、**双方の国を訪れる旅行者や「特定技能制度」によるインドからの人材の受け入れを含めた人的交流の拡大を目指す**ことで一致しました。



会談に臨む両首脳

(写真提供：内閣広報室)

技能実習制度、特定技能の状況

- ①日本経済に外国人技能実習生・特定技能は不可欠
- ②2019年末までに**日本は40万人以上の外国人技能実習生を受け入れ**、
半分以上はベトナムから、他にフィリピン・インドネシア・中国・ミャンマー・カンボジア等から受け入れ、
インドからは223人のみ ※在インド日本国大使館からヒアリング

以下、複数の大手監理団体からヒアリング

- ③ベトナム人技能実習生の失踪、ブローカーの暗躍等、ネガティブな報道やSNS拡散により、
外国人技能実習制度のイメージダウン
- ④ベトナム人は、3K業種(介護、建設、機械・金属、農業、漁業等)を敬遠、人材の高騰、
→代替国選定の準備が必要
- ⑤上述したASEAN諸国に移転してきているも、これらの国々はいずれ、人材が枯渇するのでは
- ⑥ミャンマーの政権変更による将来への不安

■外国人受入人数 ※2024年12月末まで 出入国在留管理庁データより
・技能実習生 45.6万人 ・特定技能1号 28.3万人 ・特定技能2号 832人

内、インドから

・技能実習生 1272人 ・特定技能 36人 ※2024年2月まで(NSDCからのヒアリング)

【参考】インドにおける技能実習制度・特定技能の現況

- ①2017年10月、技能実習制度の協力覚書
- ②2018年7月、技能実習生の第1期生が初めて訪日
- ③2021年1月、日印の特定技能の提携は2021年1月
- ④2022年2月、介護試験が開始されたが、受験者伸び悩み
- ⑤2022年3月、農業試験が開始
- ⑥2023年10月、宿泊業試験実施説明会開催(デリーにて)
- ⑦2023年12月、建設業試験が開始
- ⑧2024年3月、宿泊業試験開始
- ⑨2025年3月、自動車運送業試験開始

インド

■現状

- ・2023年 世界最大の人口
- ・人口ボーナス
- ・**若年層の就職難**
- ・世界中に人材を輩出
(高度人材からワーカーまで)

■性格・資質

- ・温厚、誠実、明るい
- ・**高い語学力**
(日本語習得能力の速さ)
- ・親日、**アニメ好き**
- ・**日本人と似た顔つき、食習慣(北東部)**

■日本に対するイメージ

- ・良好な二国間関係
- ・**安全で親切**な国
- ・町がきれい

■送出し機関

- ・Activeな機関が少なく未成熟
- ・他国への送出しがメリット大
- ・日本を知らない
- ・ブローカーの存在なし
(宣伝不足)

日本

■現状

- ・深刻な人材難
- ・**少子高齢化**
(特に地方を中心に若手人材不足)
- ・3K業種の人材離れ

■インドのイメージ

- ・そもそもインドについてあまり知らない
- ・**インド人=IT系高度人材**
(ワーカーの存在をあまり知らない)
- ・色黒、強面
- ・ターバン
- ・食習慣の違い(カレー、ベジタリアン)
- ・多宗教、**カースト**

■監理団体・雇用主

- ・インドおよびインド人の知識不足
(アドバンテージやポテンシャル)
- ・実績のある他国からの受入れで十分
(新規は面倒)

認識のずれ

インド地図



- ・北東7州
- ・シッキム州
- ・ダージリン
(西ベンガル州)

地図出所: 外務省

マニプール州 インパールにて
2021年11月1日

ナガランド州 コヒマ・ディマプルにて
2023年12月5-6日

宿泊 技能実習・特定技能 のセミナーを行いました！



北東インドの人財も
よろしくお願いします～！

～北東インド紹介～

北東インド



お米が主食



インド版納豆
も存在する？



牛肉や豚肉料理
が人気！



日本人と同じ
モンゴロイド系
の顔立ち！



おもてなし精神！



Copyright©ANARI Tsuneya KATAGIRI

※データ&写真提供：送り出し機関ARMS

ネパール・ブータン・バングラディッシュ・中国の国境 ダージリンにてセミナー開催！

2021年12月20日



12月20日（月）、ARMSシリグリセンター主催のセミナーをインドのダージリンにて行いました。セミナーにはANAインド総代表の片桐様を始め、ダージリンのTV局、新聞社等、多数メディアが駆けつけ、日本からもZOOMにてダージリン出身の介護実習生とリアルタイムで繋がりました。主に技能実習制度に関する説明を行い、大学生を中心とした参加者のほとんどは



日本での3年間の実習に関心を持ってくれました。今後はダージリンを含め、働き者の多い北東インド地域の人材を中心に日本へ送り出していきたいと思えます！



ARMS株式会社
日本: 0566-70-7506
インド: +91-9958887141



ダージリンテレビの取材

※データ&写真提供: 送り出し機関ARMS

NSDC International 訪問 ※全員が北東州出身、看護師資格あり、日本での特定技能(介護)希望

2023年2月2日

2023年6月20日



Copyright © ANARI Tsuneya KATAGIRI

福井県・熊本県・高知県で、初のインド人技能実習生を受入れ

※出展: 福井テレビ



2022.10.12 18:55

「介護で夢をかなえたい」インド人女性15人が日々奮闘 勝山市高齢者施設さくら荘

インドからは初の農業技能実習生2人が知事訪問

07月12日 18時16分



新型コロナウイルスの水際対策の緩和を受け、熊本県でははじめてとなるインド出身の農業技能実習生をこのほど五名市の農業法人が受け入れ12日、実習生らが県庁を訪れて蒲島知事と面会しました。

県庁を訪れたのは、インド出身のヨゲンドラ・プラタップ・シンさん（22）とボバット・シャハディウ・スリサットさん（22）の男性2人です。

2人は12日、蒲島知事と面会し、ヨゲンドラさんは、「インドに帰ってから学んだ技術を使いたい」と述べました。

また、ボバットさんは、「インドでは家族でサトウキビを作っています。熊本のミニトマトは美味しいです」と話しました。

これに対し、知事は「熊本で多くの農業技術を身につけ、将来はインドと熊本の農業のパートナーとして活躍してほしい」と激励しました。

2022. 7. 12 ※出展: NHKクマロク

高知新聞
[第42028号] (日刊)
[2022年7月12日第3版(土曜日)]

県内 インド人材に熱視線

実習生初来高 県視察団派遣も

県内で人手不足が深刻化する中、インドは注目が集まっている。8月には初めての技能実習生が来高。県は人材確保のターゲットに位置づけ、今月中旬に県中小企業団体中央会と連携し、視察団を派遣する。

高知労働局によると、県内の外国人労働者は2014年の160人から、20年は3433人と倍増。21年は新型コロナウイルス下の入国制限の影響で3001人に減ったものの、雇用する事業所は倍増し、過去最高となった。

21年の在留資格別では、技能実習生が6割の2053人を占める。国籍はベトナム1445人、フィリピン81人、中国34人など。インドは少なく、その他に含まれる。

人手不足を背景に実習生は全国で増え、ベトナムなどは労働競争が激化。賃金の高い都市部に流れる傾向もある。本県は暮らしやすさを売りにしているが、確保が難しくなったとの声も聞かれる。

そんな中、県内の経済関係者が「招来有望」と注目している。人口約10万人、世界1に迫るインドは、実習生派遣は年々伸びしろが大きいとみる。

8月、安芸郡津方町で主になすのハウス栽培を手掛ける「農をファーム」で農業を学ぶため、県初のインド人実習生、ソニヤさん(30)とスバマさん(25)がやって来た。

2人は高知市コナリー近郊のハリヤナ州出身。家族も機械が得意としており「日本の技術は高い。勉強したい」とインドに帰って生かしたい」と口をそろえて、P1入国後の制作や実習を受け入れの支援を進めている。

県中小企業団体中央会が歩調を合わせ、P1入国後の制作や実習を受け入れの支援を進めている。

視察団は10月16日、高知市入明町に長年、住民に親しまれる自転車店がある。毎日8時きっかりに店を開け、81歳の大ベテランが作業。「ちいさなおと」で紹介する。

2022年(令和4年) 10月2日 日曜日

高知新聞
発行所: 高知新聞社
高知市本町3丁目2-15
088-822-2111 / 780-6572
© 高知新聞社 2022

※出展: 高知新聞

2023年3月3日



インド「特定技能」の農業第1号、徳島へ

日本に向けて2日に出発したヴェンカタサミー・ビグネッシュさん(中央)＝首都ニューデリー(全日本空輸提供)

■日本旅館協会及び全旅連青年部へのアプローチ

- ① 将来、人材不足が予想される日本旅館協会・全旅連青年部へのインド人材の紹介
 - ② 宿泊業技能試験センターと意見交換によるインドでの「特定技能試験」開催の検討
- ・インドの大手送り出し機関から日本旅館協会幹部及び宿泊業技能試験センターへ
インド人材紹介のオンライン会議（4回）を開催 ※2021年11月15-16日、片桐が主催

大手送り出し機関4社からインド人材を説明

- ・ NAVIS ・ ARMS
 - ・ Nihon Edutech ・ HINODE
- 協力：在印日本国大使館

プレゼンテーション

- ・ 日本旅館協会、全旅連青年部幹部
- ・ 宿泊業技能試験センター

【オブザーバー参加】

- ・ JICA・国際交流基金
- ・ メディア(NHK, 共同通信社)



山形県初のインド人宿泊業
特定技能生・キランさん
天童温泉滝の湯ホテルで受け入れ
2024年12月

2022.6.13-6.17インド視察

(主催: 片桐、協力: 在印日本大使館)

- ・ 送り出し機関ホテル専門学校訪問
- ・ インド人実習生候補者とのインタラクション
- ・ 好評につき、一部は受入契約開始
- ・ **2023年7月、宿泊業4団体と共同でのインド人材セミナー開催**
- ・ **2023年10月、特定技能試験開催説明会**
- ・ **2024年3月、インドで特定技能試験開催**





THE
DAILY NNA

KYODO NEWS GROUP

www.nna.jp

インド版

NNA SINGAPORE PTE. LTD.

10 Anson Road, #14-08A International Plaza, Singapore 079903
Tel : 65-6738-3333 E-mail : sales_in@nna.asia

KDN PP 11802/03/2011 (029362) MCI (P) 095/03/2022

実習生送り出し、日印に課題 介護人材を日本へ (下)

人手不足が慢性化する日本の介護の現場にとって、世界最大とされるインドの人口は魅力だ。ただインドは、日本への技能実習生の送り出しでは他国に後れを取っている。取材を通じて、インドでの送り出し機関の少なさや、日本側の受け入れ制度の厳しさといった課題が見えてきた。【榎田真奈】



送り出し機関では出国前に介護を各分野の知識や実技、日本語の教育を行う (NAVIS 提供)

日本では外国人を採用している介護施設はまだ少ない。その中でも、インド人は特に少数派だ。2022 年 6 月時点で日本に在留する技能実習生の総数は 32 万 7,000 人余りだが、このうちインドから受け入れている実習生は 300 人余りに過ぎない。国別に見ると、ベトナム、インドネシア、中国が上位を占める。

インドが少ない要因について、技能実習生の送り出しを推進する全日本空輸 (ANA) の片桐常弥・インド総代表は「送り出し機関の数が少なく、業界が未成熟」と指摘する。

インド政府と民間の共同出資会社で技能実習制度を管轄する全国技能開発公社 (NSDC) によると、インドの送り出し機関は 23 年 1 月時点で 29 社。数百社あるベトナムと比べてかなり少ない。22 社とミーティングを実施した ANA の片桐氏によると、実際に送り出した実績があるのは 6~7 社にとどまっている。

インドでは、送り出し機関と実習生を仲介するブローカーが存在しないことも、送り出しが進んでいない一因だ。ブローカーは、積極的に送り出しの営業活動を行う側面があるため。一方で悪質なブローカーが存在しないため、市場の透明性が高いというプラスの側面もある。NSDC の幹部は、「われわれは送り出し機関と実習生の間に入って料金を取ることを認めていない」と話した。

インドからの送り出しは、18 年 7 月に始まった。日本

同は認められない。

人材確保が困難な産業で、一定の技能や専門性を持った外国人の受け入れを目的とする「特定技能制度」でも、介護分野が対象となる「特定技能 1 号」の在留資格では家族の帯同が認められていない。

また、日本の賃金は諸外国と比べて上昇幅が小さく、給料面でも魅力が薄れている。中国など、賃金の上昇によってすでに技能実習生の採用が難しくなっている国もある。

現場がインド人材を確保する道筋は見えた。今後優秀な人材の採用を加速させるためには、家族帯同を可能にするなど制度面での改良も求められるだろう。

ANA の片桐氏は「日本ではインドについての知識が不足している。技能実習生の送り出しは日印の人的交流の拡大につながる。セミナーや視察を通じ、人口ボーナス期にあるインドは人材が豊富で、介護分野などでも能力の高い人材を採用できる潜在性が高いことを周知していきたい」と話した。



THE
DAILY NNA

KYODO NEWS GROUP

インド版

NNA SINGAPORE PTE. LTD.

10 Anson Road, #14-08A International Plaza, Singapore 079903
Tel : 65-6738-3333 E-mail : sales_in@nna.asia

KDN PP 11802/03/2011 (029362) MCI (P) 095/03/2022

技能実習生が北海道の旅館へ 宿泊業に人材、来年から特定技能も

日本に向かう宿泊業の技能実習生 2 人が 20 日、インドの首都ニューデリーの空港を飛び立った。入国後の研修を受けた後、来月から北海道の登録温泉の旅館で働き実践的な業務を学ぶ。日本の宿泊業は人手不足が深刻化し、外国人材の受け入れ加速が求められている状況だ。来年からはインドでの宿泊分野の特定技能試験が始まり、インドからの人材の受け入れが本格化しそうだ。



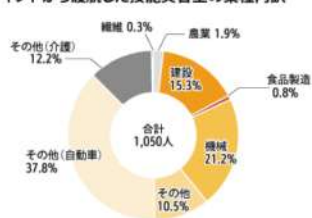
インドから宿泊業の技能実習生として渡航したウィンニングラ・ジャジョさん (左から 3 人目) とエズン・マロニさん (左から 4 人目) = 20 日、首都ニューデリー (全日本空輸提供)

ニューデリーの空港を 20 日、宿泊業の技能実習生 2 人が日本に向けて飛び立った。インドからの宿泊分野での技能実習生の渡航は極めて珍しいケース。来月 21 日から登録温泉の旅館で働き、技能を身に付ける。まずは旅館のレストランで、サービススタッフを担当する予定だ。

渡航した 2 人はどちらも、日本人に容姿が近い住民が多く暮らすインド北東部出身。ウィンニングラ・ジャジョさん (22、ナガランド州出身) は「技術の高い日本のホテル業界で働くことは、成長できる良い機会」と考え日本への渡航を決めた。日本では、「語学を上達させ、日本文化や料理を勉強したい」と目標を語る。

2 人を受け入れる第一滝本館 (北海道登別市登別温泉町) では、正社員約 130 人の 20% 強を外国人が占めているが、技能実習生の受け入れは初めてだ。南智子社長が昨年 6 月にインドを視察。「現地の送り出し機関が信頼でき、学生のレベルが高い」と感じたことが、同社初の見込み。

インドから渡航した技能実習生の業種内訳



※ 2023 年 9 月時点

出所: 全国技能開発公社 (NSDC)

インドからの介護分野などの技能実習生の送り出しを推進してきた全日本空輸 (ANA) の片桐常弥・インド総代表は「宿泊業でもインド人材の需要がある」と断言する。

第一滝本館の南氏は「若い人が多い。20 年以上は人口ボーナス期 (労働人口の多さが経済成長に有利に働く期間) が続く」インドの人口構成を魅力に挙げる。さらに現地で視察でインド人材に対して「学習意欲が高く、

見込み。

現地で試験実施を決めた宿泊業技能試験センターの山口敦史理事は、「インド人材の受け入れは、優秀な人材を獲得する上で意義がある」と語る。インド人は英語ができるため、インパウンド (訪日客) が増える日本の宿泊業界で英語力を発揮できる。また、昨年 6 月の視察で学生と接し「日本語の習得ペースが速い」と感じたという。

19 日に北部デリーで開催した試験の説明会には、送り出し機関や日本語学校など 40 社余りが参加し、熱心に説明に聞き入った。ダイブの調査によると、宿泊業は特定技能の 12 分野で最も人気があり、インド人材の渡航の加速に期待がかかる。

海外での宿泊分野の特定技能 1 号の技能測定試験は現在、フィリピン、インドネシア、ネパールの 3 カ国で開催している。インドでの 2 回目以降の日程は未定だが、継続的に開催する予定だ。

山形県の天童温泉で旅館を運営する滝の湯ホテル (山形県天童市) の社長でもある山口氏は、インドで開催された特定技能試験の合格者を 2 月以降、「2 人ずつ採用したい」と話した。第一滝本館の南氏も「ぜひ採用したい」と前向きで、3~4 人ずつ採用する意向を示した。